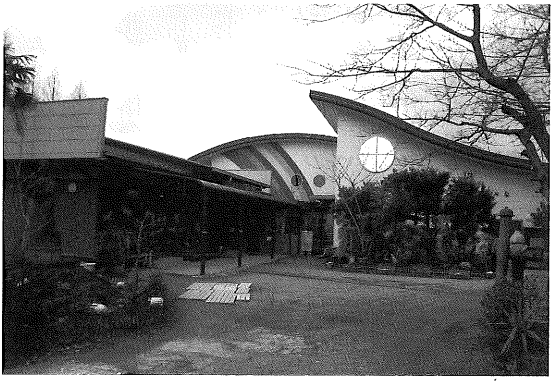
シリーズ
子どもが育つ場所から

自然の中の「いのちの村」

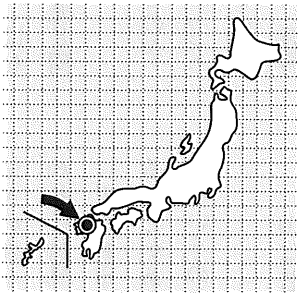
保育園ひなた村自然塾（佐賀県佐賀市）



「『ひなた村』にはヤギがいるんだって」

そう聞いた私は、ずっと一度遊びに行きたいなあと思っていました。「子どもが育つ場所から」の取材のお話があった時、私は迷わず「ひなた村」を選びました。

行ってよかったです。ヤギにもポニーにも、会えました。



今号のレポーター
庄籠道子
佐賀大学文化教育学部附属幼稚園副園長。子どもたちの育ちには、仲間と自然が欠かせないと思っています。園内に小さいけれど、メダカ池も作りました。

「保育園ひなた村自然塾」は、佐賀市街を北に上がった所、広大な佐賀平野が背振山脈にぶつかった所にあります。園長の藤﨑博喜先生が、今から三十年前に無認可保育園として始めたそうです。お父さんから引き継いだ山のミカンが枯れてしまい雑木林になった場所に保育園を建てたそうです。雑木林の中を最初は七、八人だった園児と歩き、歩いた所が道となり、ニワトリを飼い……少しずつ大きくなっていき、九年前に認可保育園となり、今では分園も合わせると二百名を超す園児と四十名を超す職員が在籍しているそうです。広大な敷地は六千三百平方メートルあり、保育園の園舎のほかに、放課後学童クラブ「ひなた村思惟の杜倶楽部」の建物、作業小屋などがあり、園庭や砂場のほかに、田んぼ・畑・池があり、園内に川も流れています。木々は数えられないほどあり、たくさんの小動物がいます。

食材や調味料にもこだわった給食も有名で、他の保育園ではなく「ひなた村」に入りたいという待機児童もいるそうです（佐賀県にはほとんど待機児童はいないのですが）。国内だけでなく、外国からも見学にみえるそうで、最近もスリランカからお客さんがみえたそうです。

壮大なロマン

約束していた十時半に行くと、「お久しぶり」と副園長が出迎えてくれました。「あなたと約束した後に別のお客さんが来ることになり、あなたとの時間を変更しようかと思ったけれど、いやいやちょうどいい。引き合わせましょうと思ったの」とのこと。

職員室の丸テーブルには二人の男性のお客さんが座っておられました。佐賀出身で、ひなた村の園長とは中学・高校と先輩で、今は東

京で「家庭支援メンタルサポート協会」の理事長をしておられる森薫さんという方と、その弟さんでした。お客さんと園長・副園長と私、五人でおしゃべりしました。「子どもは小さい時から自然の中で仲間にもまれて育つのがいいですね」などなど、意気投合して大いに盛り上がりました。

森さんや園長の「壮大なロマン」を聞きました。このひなた村を、赤ちゃんから青年までが、何か困った時には親子で駆け込んで来ることのできる場所にしたい。そこには老人もいて、動物や木々や田んぼや畑があって、自然の中で過ごすことができる。たくさんの人々が集まって知恵を出し合うことができる。そんな場所をつくりたい。「いのちの村」をつくりたい。「最後の砦」でありたい。

今、保育園と放課後児童クラブはあるから、次はフリースクールを考えている。通信制のサポート校で働いていた森さんの弟さんが、まずはその手伝いができるはずだ。そのようなお話でした。保育園には、すでに未就園児の親子の集まる日もあるそうです。保育園の園児にも職員にも障碍のある人を受け入れておられるそうです。「壮大なロマン」「夢」とおっしゃっていましたが、かなりの部分は達成できているんじゃないかな。そう思いました。

「園内、どこでも自由にご覧になってください」。そう言っていただき、私は職員室を出ました。

解放感あふれるランチルーム

広い玄関ホールでは、今到着した分園の子どもたちが、先生と一緒に荷物を下ろしていました。

玄関ホールの奥は何段か低くなっており、しかも天井は高くなっており、ぐるりとガラスに囲まれた、とても解放感あふれる広々としたランチルームでした。広い床にも段の上にもテーブルと椅子があり、子どもたちは野菜たっぷりの、とってもおいしそうな給食を食べていました。食べているのをのぞいたら悪いかなと恐る恐るそばに行ってみましたが、子どもたちは気にすることなく、楽しそうにおしゃべりしながら食べていました。

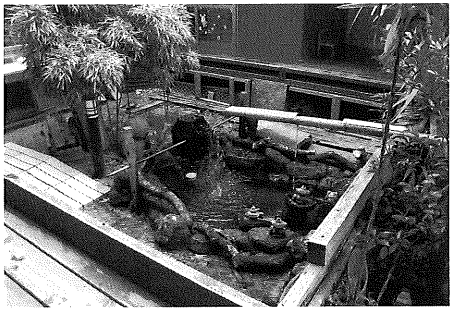
▲ランチルーム。なぜかお相撲さんが……

布の袋（おはしなどが入っているみたい）を手に、段に座っている子どもたちがいました。テーブルが空くのを待っているのでしょう。何だか待っているのも楽しそうでした。

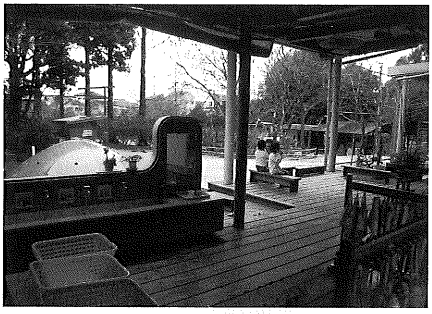
自分らしく過ごせる場所

ランチルームは南側の園庭に面しています。ランチルームの西側と東側に保育室があります。それらがみんな木のテラスでつながっています。テラスとテラスの間には小さな中庭が幾つもあります。

西側は赤ちゃんや小さな子どもたちの部屋のようです。そっとのぞくと、やはり給食を食べていました。周りには布団が敷き詰められていました。



▲中庭。それぞれテーマがあるようで、ここは水車がありました



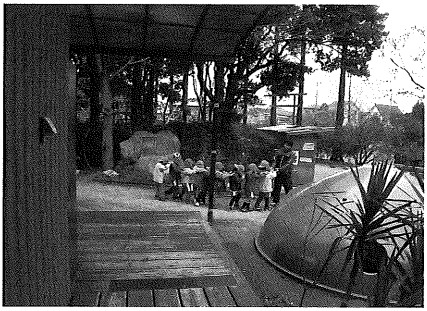
▲歯磨きしてます

▲三々五々遊ぶ子どもたち。絵の具で絵を描いている人もいました

東側は大きい子たちの園舎のようです。もう給食を食べ終わったのか、これからなのか、絵を描いたり、ままごとをしたり、三々五々遊んでいました。

廊下では、大きい子たちは自分で歯磨きをし、小さい子たちは先生から仕上げ磨きをしてもらっていました。一本列車になって園庭を帰ってくる子どもたちもいました。

どの年齢の子どもたちも、私がウロウロとお部屋をのぞいても、あいさつをしてくれる子もいるけれど、そのまま遊び続ける子どもたちがほとんどでした。先生たちも「こんにちは」とあいさつはされるけれど、後は特にどうということなく、いつも通りです、と自然な感じ。お客さんの私も緊張しないでいられます。それぞれが自分らしく過ごせる場所なんだなあと感じました。



▲一本列車で帰ってきました

いよいよヤギとご対面

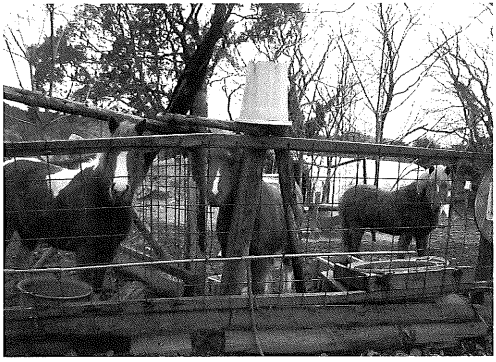
靴を履き替えて園庭に出ました。まずは北の園庭です。いました！「ガラガラドン」のような大きな角を持ち、だけど、とってもかわいい声でメェーと鳴きながら寄ってきて、柵の間から顔を出すヤギが。

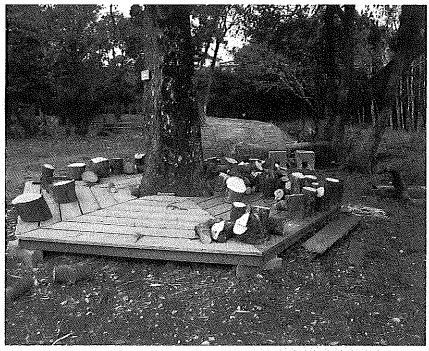
下に落ちているキャベツの外葉を拾い、恐る恐る口元に持っていくと、口で受け取り、食べてくれます。

わあ！　差し出した物を食べてくれると、私が受け入れられた気がして、とてもうれしいものですね。

何枚も食べさせていると、隣の柵からポニーが顔を出します。あら、あなたも食べたいの？　その辺に生えている草を差し出すと、こちらもむしゃむしゃ食べてくれます。向こうから、あと二頭のポニーがやって来ます。食べさせる物がもうないよ。ふと見るとレタスの外葉がたくさん入った段ボールが積んであります。これをやればいいのね。

後ろを振り返ると網の小屋。見に行くと、七面鳥がいます。隣の小屋にはクジャク。向こうには大きく成長したリクガメ。池にはカモ。二つの池には島があり、丸太の橋や太鼓橋が架かっています。

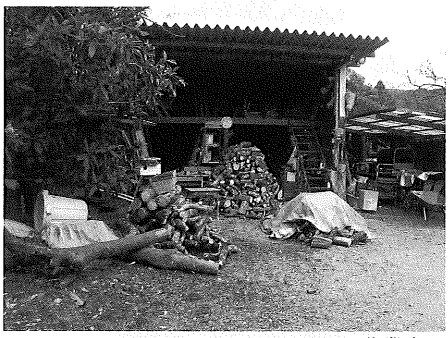




▲ベンチ

木の根元にはベンチ。ここに座ったり歩いたりしたら面白そう。

二階建ての小屋があり、のぞくと、軽トラック・薪・工具……ああ、作業所なんだ。作業服を着た男性が顔を出します。外回りをしてくれる職員がいるって園長先生がおっしゃっていました。確かにこの広大な敷地の管理は専門の方が必要でしょうね。



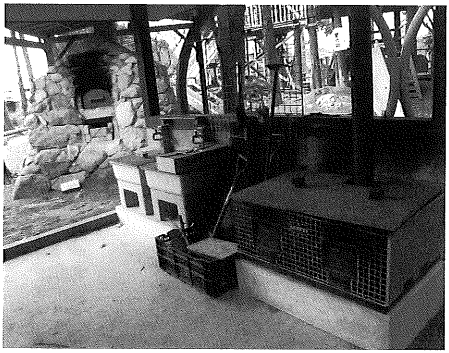
▲作業小屋

キャベツとレタスの植わった畑。五右衛門風呂。

敷地内に川。幅も深さも一メートル以上ありそう。丸太が二本渡してあります。この橋を渡るしか向こうには行けないみたい。こわごわ渡ってみます。少し高くなっていて竹やぶです。ベンチや看板。「ゆっくり時の杜」と書いてあります。丸太の橋を渡って戻り、園舎の横を通って、次は南の庭へ。

運動会ができそうな芝生の庭。砂場。たくさんのウサギがいるウサギ小屋。その奥にはニワトリ小屋。私が近寄るとたくさんのニワトリが寄ってきます。草を抜いて差し出すと、あっという間に食べます。川の向こうには田んぼ。わらを干していたのでしょう。竹が組んであります。

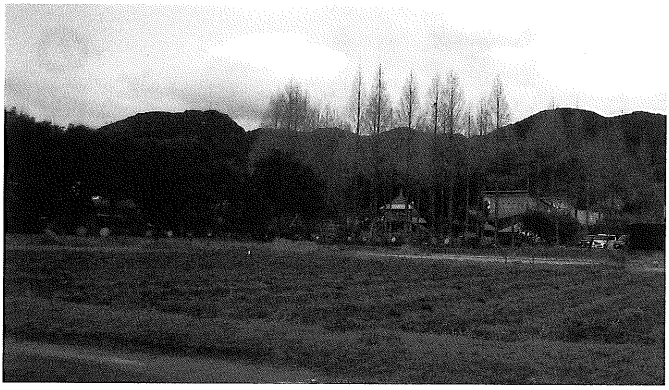
大きなアスレチックもあります。キンカンの木が何本も並んでいます。かまど、調理場、いろいろな置物。人工の物と自然の物が組み合わさっています。時々木の名前や場所の説明の看板。一日いても飽きない感じ。大人の私がそうなのだから、子どもたちはどんなにワクワク過ごすことでしょう。



▲ここでよくクッキングをするそうです

私が園庭で過ごした時間は、子どもたちがお昼を食べている時間でした。今度は、子どもたちが遊んでいる時間に一緒に園庭で遊びたいと思いました。楽しそうです。

— 訪問メモ —
訪問時期：2014年2月
訪問場所：社会福祉法人緑光舎 保育園ひなた村自然塾
〔住所〕佐賀県佐賀市大和町久池井1368番地（本園）
〔電話〕0952-62-4881



▲「ひなた村」遠景。後ろに背振の山々